



ごみ分別収集の現状は？

現状は？

「ごみ問題とごみリサイクル」ということが毎日のように新聞、テレビで話題にされ、国内だけでなく世界中がごみによる環境問題に注目しています。

私たちが毎日排出するごみは、いったいどうなっているのでしょうか？ 生活に密着していることだけに気がかりです。そこで、市環境衛生課長の菅原さんに大館市のごみ分別収集の現状を伺いました。

▽ごみ分別収集と問題点は？

家庭から排出されたごみは、四分別収集という方法で集めます。収集は①燃やせるごみ(生ごみ、紙くず、ナイロン等)が週二回、②燃やせないごみ(せともの、割れガラス、空き缶等)が月二回、③粗大ごみ(テレビ、洗濯機等)と④処理困難ごみ(乾電池、体温計等)が年二回となっています。

市では、一年間の収集予定を「ごみ定期収集町内別区分表」にし、毎年四月に各戸へ配布してごみを出す際の協力を求めています。しかし、配布した区分表がごみとして出されていますし、

「布団は燃やせるごみ？」、「私の町内にはいつ収集にくるの？」といった問い合わせがよくあります。また、燃やせないごみ収集の日にも粗大ごみを一緒に出すことも多く、収集委託業者がたいへん苦勞しています。自分の家からごみが無くなればよい」との無責任さが目立ちます。

▽自治体によっては、六分別収集方式を採用しているところもあると聞きましたが？

確かにあります。その分別区分は①生ごみ②紙くず、木くず③空き缶④ガラス類⑤危険物(スプレー缶等)⑥有害物(乾電池等)とかなり細かく指定されています。市では、四分別方式が完全に行き届くようになれば、分別区分を増やしていきたいと考えています。そのためには、四分別方式が徹底されるよう皆さんのご理解とご協力が必要です。

▽「災いは忘れたころに……」の例えもありますが、時々ごみ収集車に火災が発生していると聞きますが？

一時預かり所に出されたごみ

を袋に入れたまま収集車の機械で圧縮しますから、中味の分からない黒い袋の中にスプレー缶等が混じっていると爆発するケースがあります。また、粗大ごみに出された石油ストーブに灯油や乾電池が残っていて発火したこともあります。ごみを出す場合のちよつとした心配りで、こうした事故は防げると思うのですが……。

▽分別の徹底や事故防止のため、

ごみ袋の指定など検討していかなければと考えています。

▽資源ごみの回収状況は？

市では十一年前から資源ごみを回収した町内会等の団体に奨励金を交付して、現在約百七団体に協力していただいています。古新聞、古雑誌、空きビン、アルミ缶等の資源ごみの回収は、町内会、老人クラブ、子供会等の活動資金の一部になるだけでなく、大きな省エネにもなります。引き続き資源ごみの回収には、市民のご協力をお願いしたいと思います。

▽処理困難ごみの回収は？

乾電池、体温計等の処理困難ごみの回収は、年二回の粗大ごみの収集と一緒に実施しています。

乾電池の収集は昭和六十三年から始めていて、昨年までの三年間で約二十トン回収しました。回収した乾電池等は、年一回北海道の処理業者に運んで処理しています。

処理困難ごみは透明なビニール袋に入れて、有害ごみと表示して出してください。

先日、テレビで「ごみの日のない国」という番組が、ちょうどこの原稿と格闘していたときに放映されました。番組ではスウェーデンのごみ処理の実態が紹介されていて、そのすべてが夢のようなシステムでただ驚くばかり。特に、子供が父親の誕生日にミミズをプレゼントしたという話には感動しました。スウェーデンでは教育の基本の一つに環境問題を取り上げていて、子供の時から自然や資源、物の大切さを学んでいるそうです。私たちの生活を振り返ってみると、大量消費、大量廃棄が当たり前になっています。このレポートを書きながら、便利さの代償に私たちが失ってしまったものの大きさを感じています。ごみ問題は地球環境を守るため行政の大きな課題であると同時に、私たち自身が真剣に考えていかなければならない身近な問題でもあるのではないのでしょうか。

広報市民リポーター

富樫 蕪子 (板 沢)



環境衛生課長から取材する富樫リポーター